

第5回研究会

「人と暮らし」ユニット5

「自然調和型の住環境と防災」研究方針について

—2016年1月21日の研究会のまとめ—

龍谷大学理工学部実験助手・里山学研究センター研究員
林 珠乃

●第三研究班の研究の位置づけ・目的

第3の「人と暮らし」研究班では、「自然調和型の住環境と防災」研究ユニットが、第1班と共同で、最新の景観地理学と防災学の研究水準を取り入れ、その成果を地図上で重ね合わせ総合化する。その成果をベースに、「資源循環型コミュニティの新たな創造」研究ユニットは、あるべき都市再生や地域創生に資する循環型社会にふさわしい新しい社会の関係性構築に向けた研究を行い、総合研究班における議論のプラットフォームを作る。

—構想調書から

●ユニット5「自然調和型の住環境と防災」の研究の柱

- (1) 琵琶湖水域圏の土地の地形、地質、地盤構造、植生、生態系などの自然要因と、地域の歴史・文化的な土地利用における人的要因との相互作用を研究
- (2) 民俗学的知見や法学的知見に基づく検討
- (3) 地図を重ね合わせ、地域の景観構造を総合的に把握

—2015.04.15牛尾メモから

●研究の手順案

- ・手順1：景観の記述→分析→提案を行う
- ・手順2：政策提言を見据えて、モデルになりそうな地域・システムを調査分析→一般化

1. 景観の記述

*マクロ的・外的な視点からの記述

ツール：GIS

集約するデータ：地形・地質・植生・土地利用・人口の分布・産業の分布等

景観生態学的な三視点：景観区分図・景観模式断面図・景観収支

参考となる資料：琵琶湖景観生態学図、琵琶湖沿岸域の土地利用と景観生態、琵琶湖岸の環境変遷カルテ、琵琶湖湖岸の景観生態学的区分、滋賀県地域環境アトラス 琵琶湖データカタログ、琵琶湖・淀川水系における水利用の歴史の変遷

＊ミクロ的・内的な視点からの記述

ツール：聞き取りなど

参考となる資料：今昔写真でみる世界の湖沼の100年水辺の暮らしはどう変わったのか

2. 景観の分析

＊手法：GISと多変量解析の複合

＊空間的特徴の抽出：データの重ね合わせによってえた新たな視点での特徴の把握

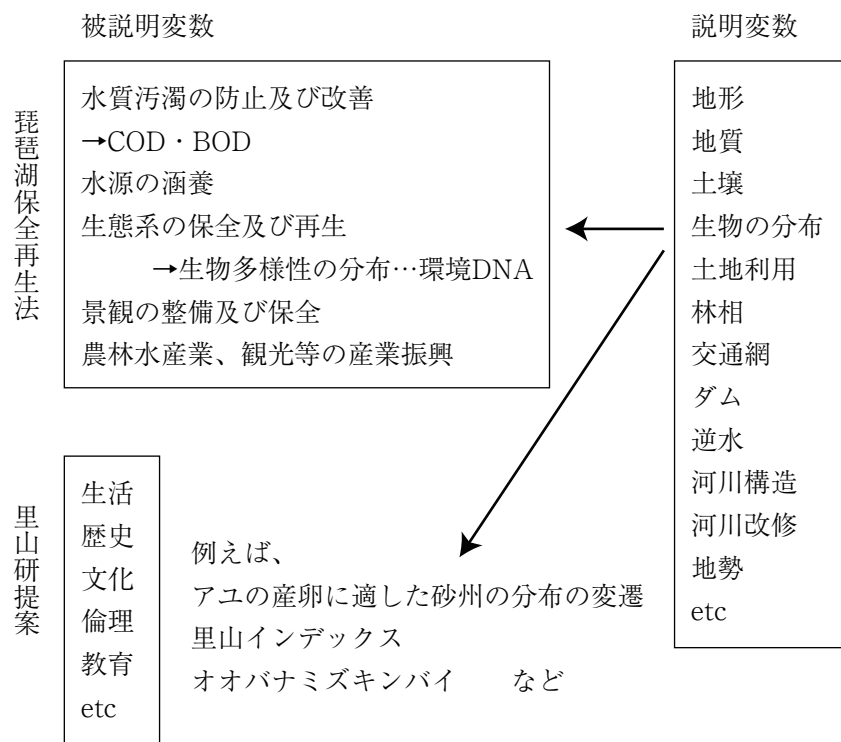
＊時間的ダイナミクス—琵琶湖水域圏の景観の変遷の分析

ターゲットとする年代：現在と、内湖があった時代・昭和30年代など

＊空間的ダイナミクス—地域間の比較

分析対象の単位：集水域・湖東湖南湖西湖北・行政区など

＊多変量解析のイメージ



3. 景観の提案

• 適地選択・景観計画

オープニングシンポジウムでのプレゼンテーション

• 琵琶湖水域圏の景観のみかた—林

• 様々な年代の天津市市街地の航空写真—中川